

ナルニア国物語

魔術師のおい

13

C・S・ルイス

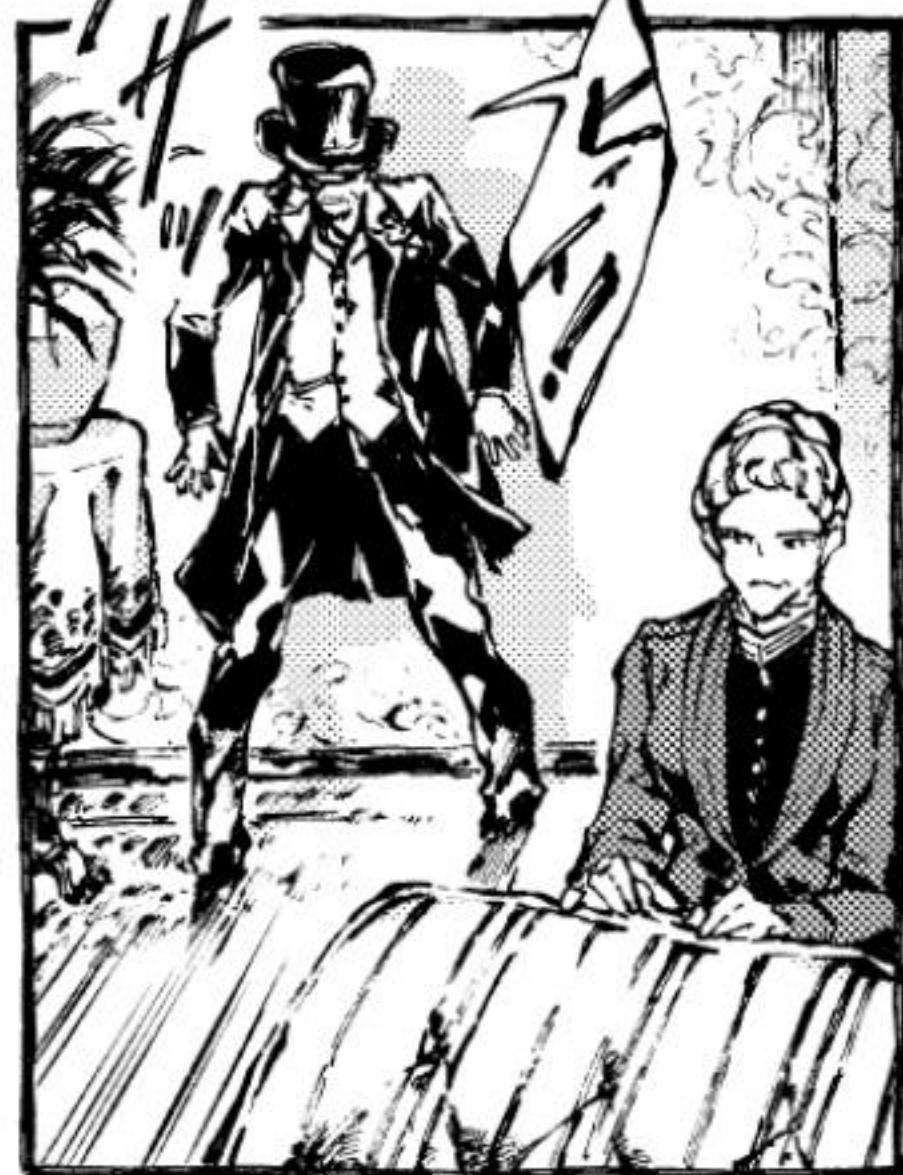
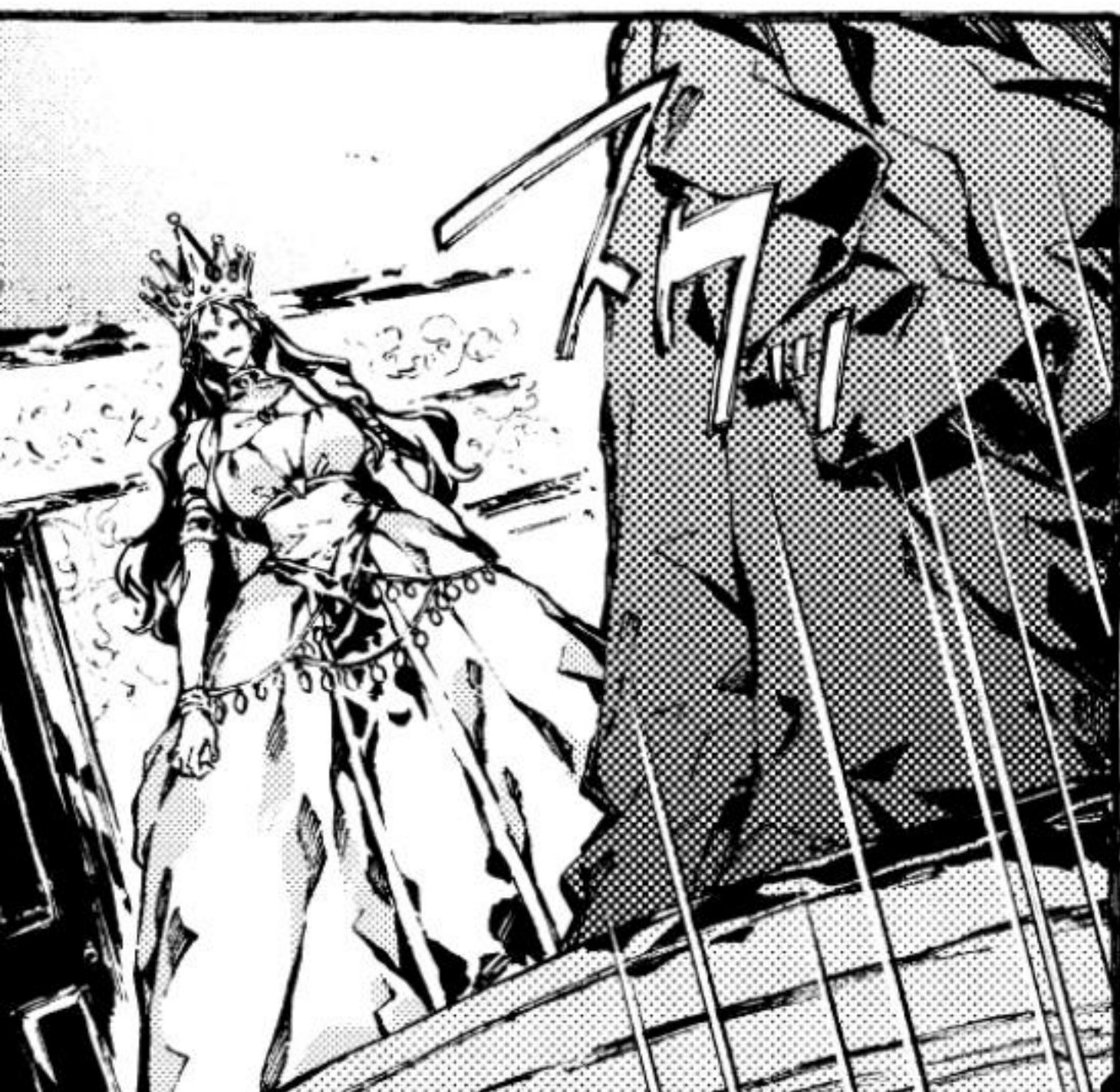
土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第13話 玄関前の大騒ぎ(前編)













そんな
ことだろうと
思ったわ

この女

飲んだくれて
いるのね

酔っぱらい
とはね!

まともに
しゃべることも
できないじゃ
ありませんか――

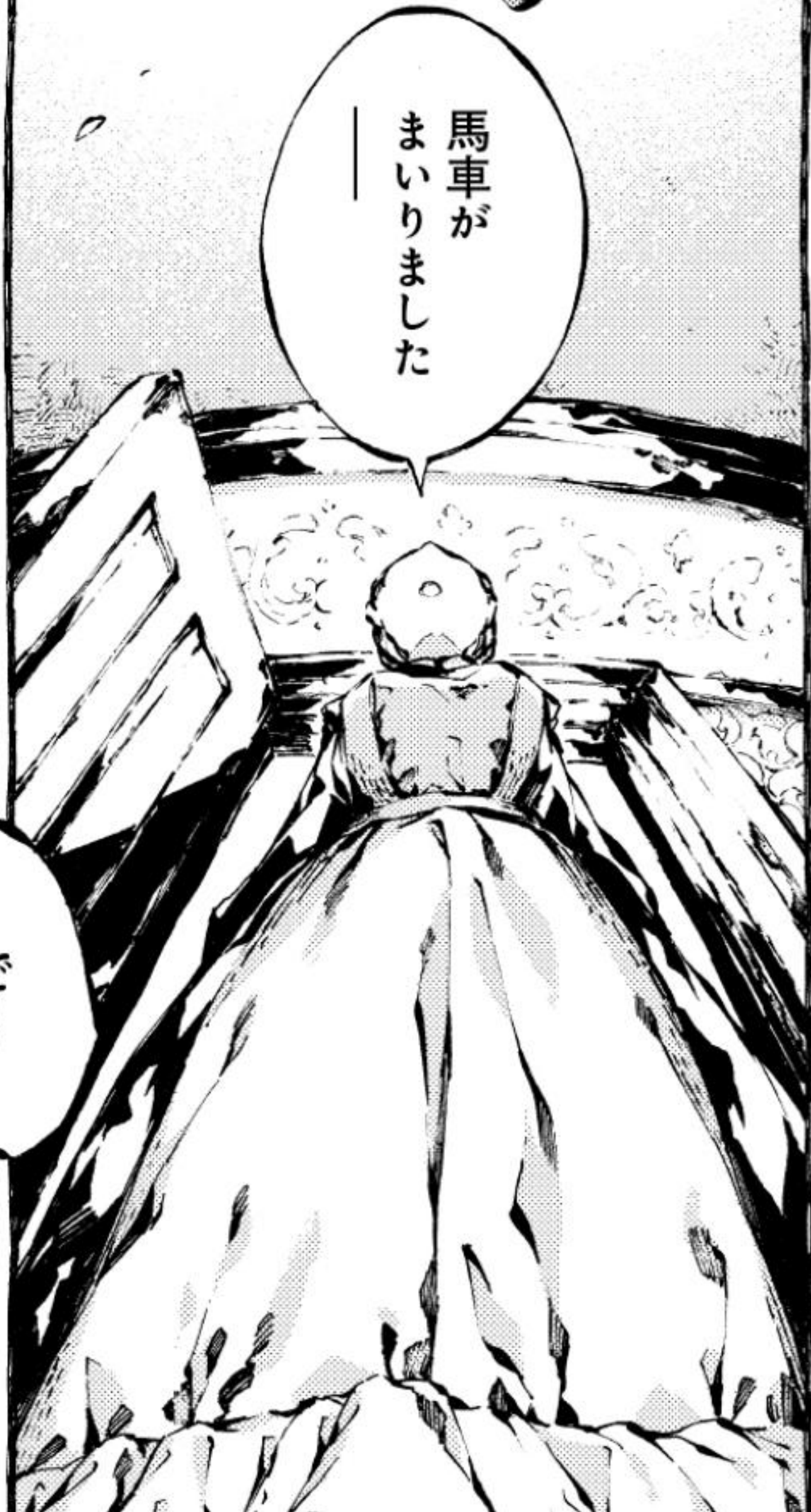
失礼
いたします
旦那さま

すばらしく
おどる朝の時間を
すごしていた

す
...



で
...



馬車が
まいりました





案内せよ

奴隷

暴力は
まことに遺憾で…

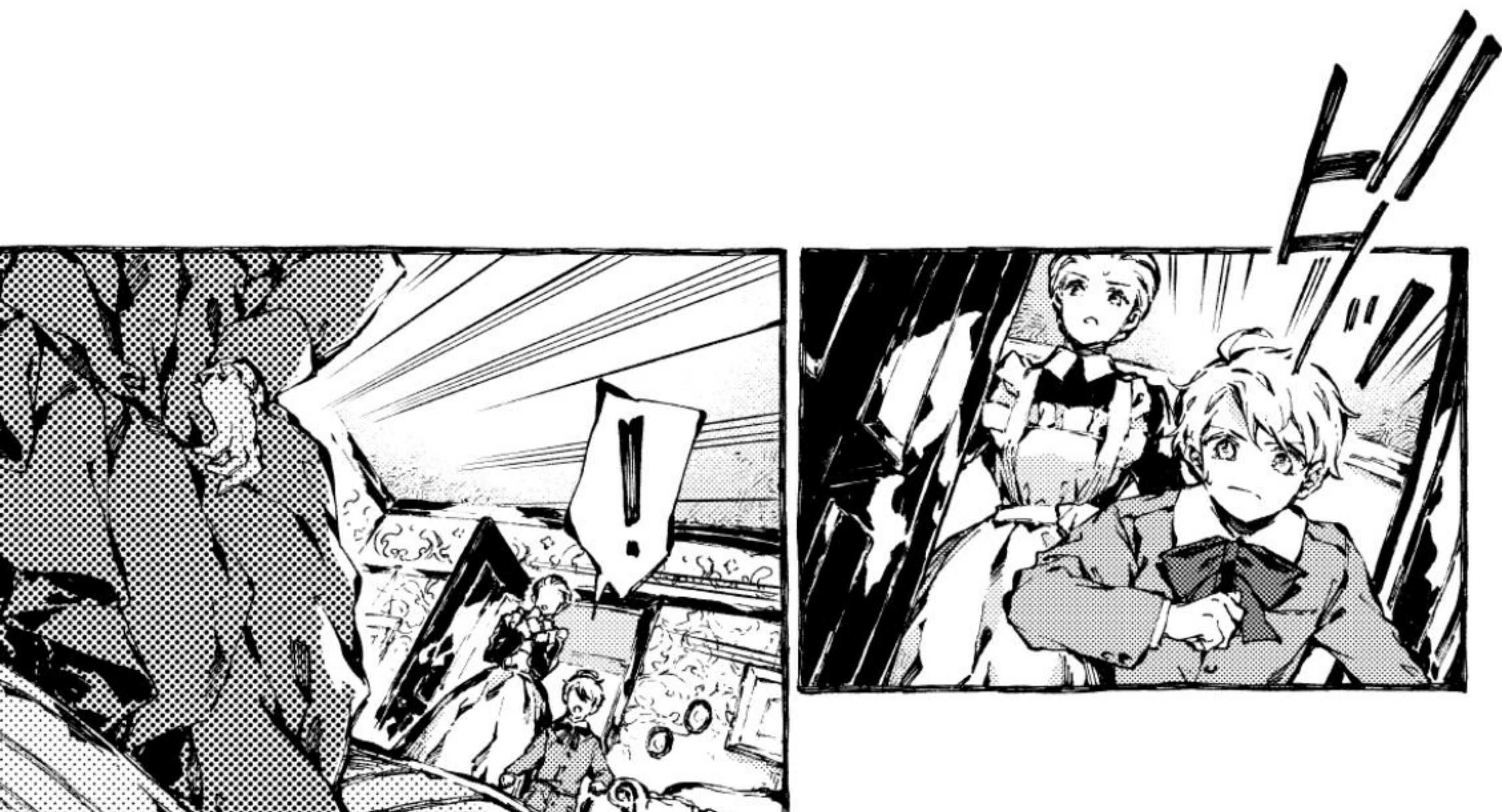
抗議
せざるを…



たいへんだ！

魔女が
ロンドンに
野放しに
なっちゃう

アンドリュー
伯父さんと
いっしょに…！









どうあっても
魔女を家の中で
暴れさせる
わけにはいかない

お母さんが
魔女を見たら
たいへんなこと
になる

そして

できることなら
ロンドンの街中
でも
魔女が暴れるの
を
阻止しなくちゃ

魔女は

チャーンで
王宮の門を
吹き飛ばした

あの
とんでもない魔力で
この世界を征服する
つもりなんだろう



いま現在
でさえ

バッキンガム宮殿や
国会議事堂を
吹き飛ばし

多数の警官が
吹き飛ばされて
ちっぽけな
ちりの山に
なっているに
違いはない

そして

はつきり
言えることは

ぼくには
何ひとつ打つ手が
ないということだ



…だけど



ぼくが魔女に
さわってる
あいだに

あの指輪は
磁石みたいに
効いたんだっけ

黄色い
指輪を
つければ

魔女もぼくも
「世界のあいだの森」に
行くはずだ

そしたら

あれは

あの場所のせいで
起こったこと
なんだろうか

それとも

魔女はまた
弱るのかな？

自分の世界から
引きずり出された
シヨックで
あんなっただけ
なんだろうか？





どっちに
しても

やって
みるしかない

あいつを
どうやって
見つければ
いいんだろう？



レティ
伯母さんは

行き先を
ちゃんと
言わないと
外出を許して
くれそうも
ないし

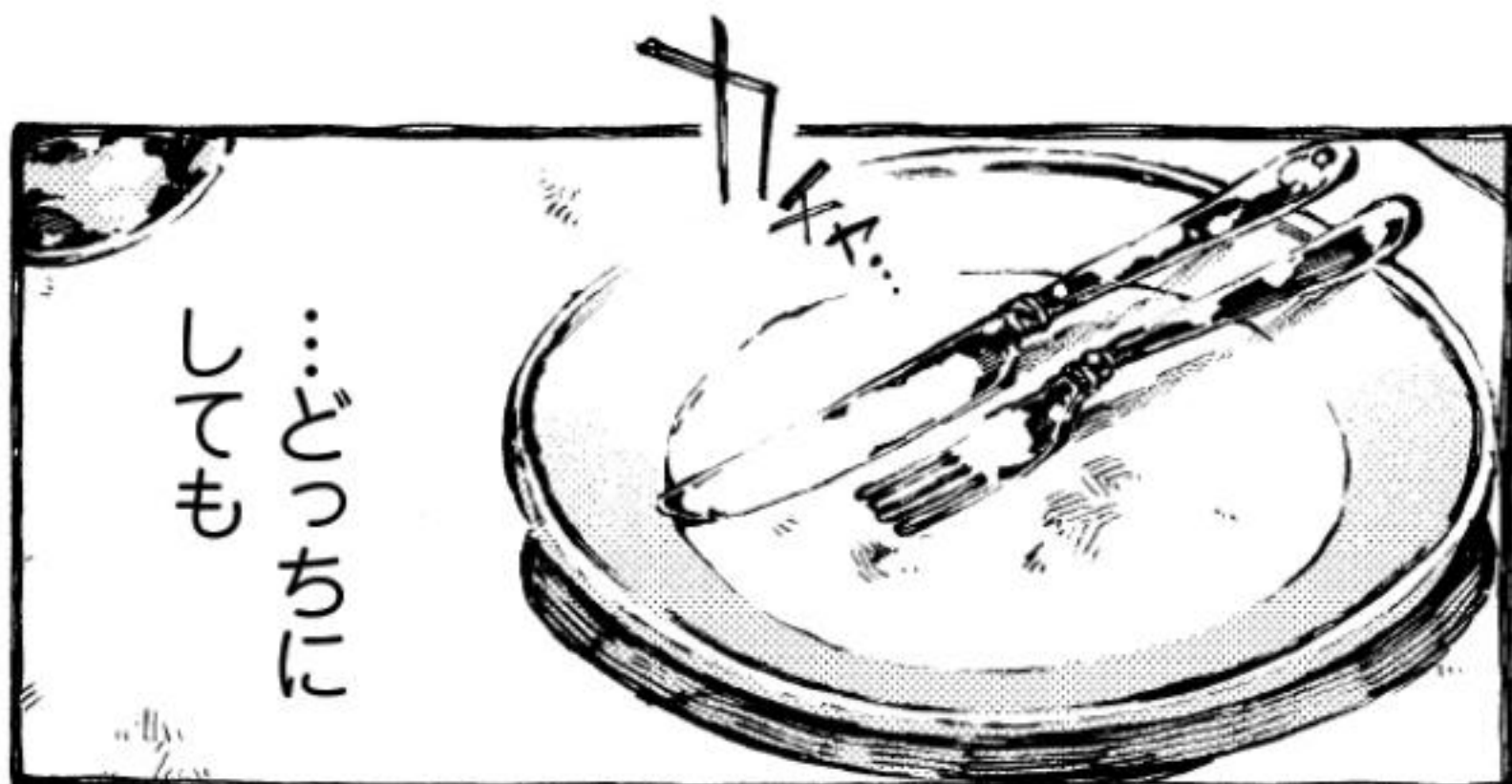


手持ちの
お金は
二ペンスしか
ないし



ロンドンじゅう
探しまわるには

乗り合い馬車や
市電に乗るお金が
いるしなあ…



…どつちに
しても



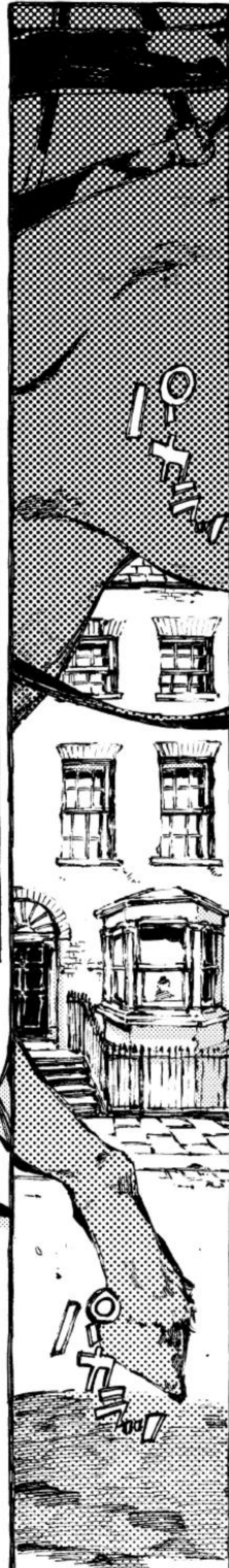
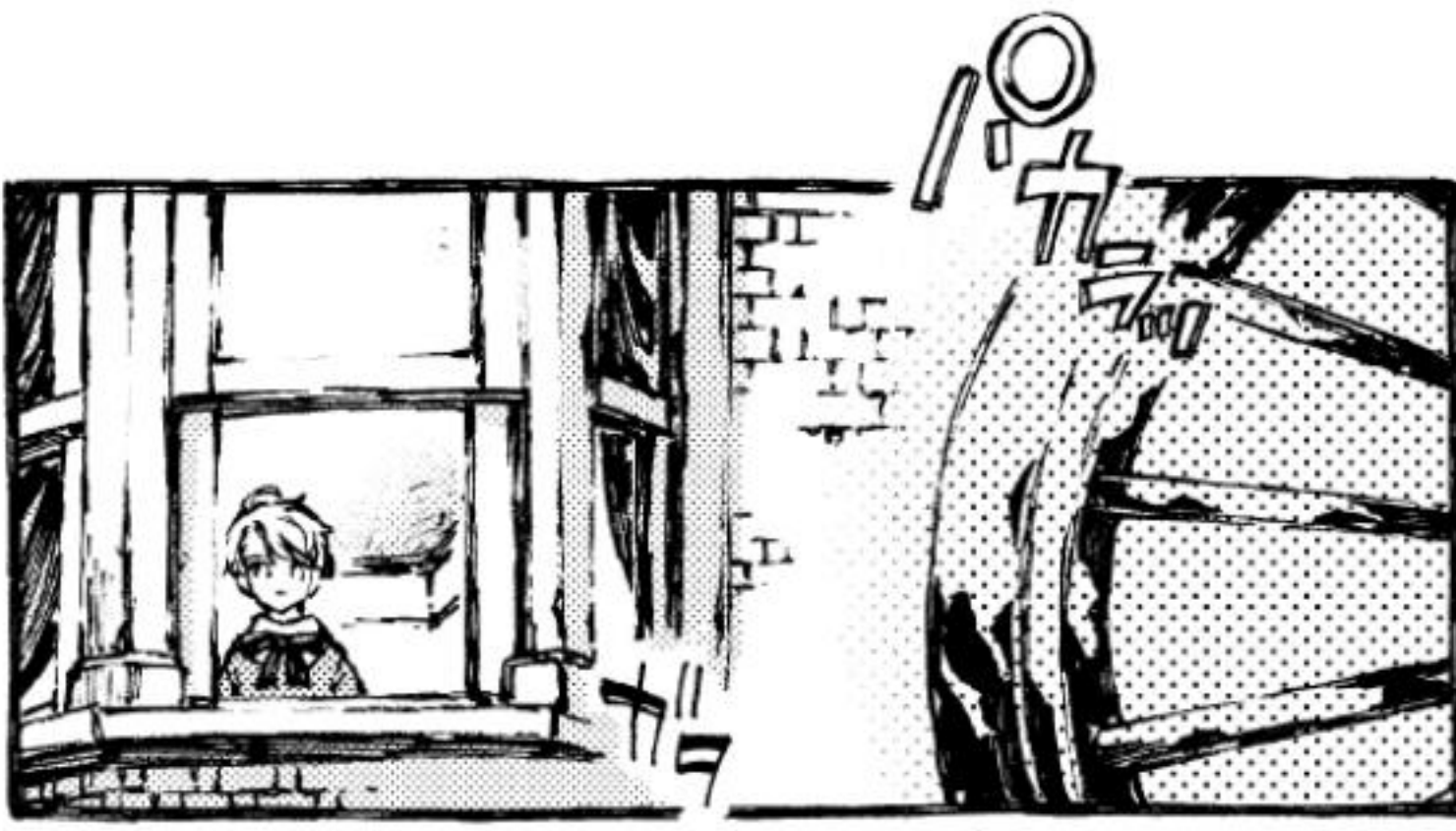
どこを探せば
いいかなんて

見当も
つかないや



アンドリユー
伯父さんは

まだ
魔女といっしょに
いるんだろうか？



ほくに
できるのは

伯父さんと魔女が
家にもどって
くるのを願って
待つことだけだ

玄関を
見張って

二人が
帰ってきたら
いそいで
駆けだしていつて

魔女が
家にはいる前に
つかまえて
黄色い指輪を
つけなくては

ここからなら
玄関へ上がってくる
石段も見張れるし

家の前の通りも
見張ることが
できるから

知らないうちに
誰かが玄関から
はいってくる
心配はない



昼食に
遅れるなんて

今までいったい
何をしていたの？

デイゴリー・カークと
出かけていたの

びしょぬれ
じゃない！

……まあ！

こ……これは

水たまりに
入ったの

……森の中に
あった……

どこの森？

公園の中に
あったの？

わからない

公園のような
ところだったかも……

あながち
うそではない

……つまり

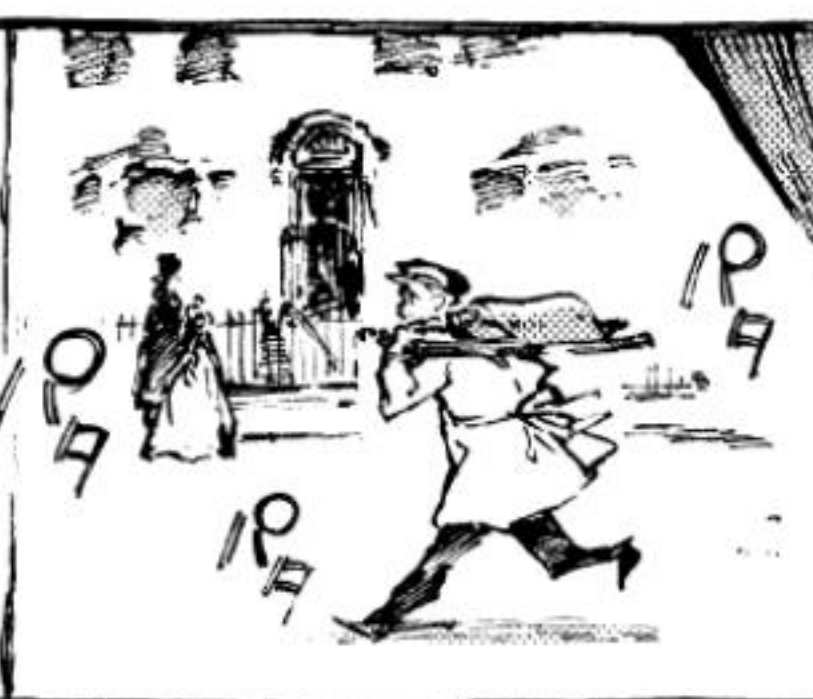






ポリーは
どうしているの
だろう









まあ

おいしそうな
ブドウ
ですこと！



妹には
何よりですわ



でも

かわい
そうに！



メイベルは
いまと違っては

若さの国から
摘んできた果物でも
食べさせなくては

治らないんじや
ないかと……

この世の
ものでは
効きそうも
なくて……



〈若さの国〉？

伯母さんが
たいした意味もない
大人の会話を
しているだけだと思って

…いつもなら
こんな会話

気に
もとめなかった
だろう

〈若さの国〉は

どこかに
ほんとうに
あるのかも
しれない

……だって

いまのぼくは



知っているじゃ
ないか

この世とは
ちがう

別の世界が
ほんとうに存在
することを……！